

書林

2009 年 4 月 10 日 発行

第 75 号

雑感-----	1
経営学部開設によせて-----	2
卒業論文を書き終えて-----	3
私の図書館活用法-----	4～5
私の薦める 1 冊-----	6～12
Welcome to SGU Library -----	13～14
from Library-----	15
2008 年度図書館統計-----	16
編集後記-----	17

雑 感

新図書館長 西尾 敬義

漸く春がやってきました。庭には白と黄のクロッカスが咲き、大学の周りではフキノトウが芽を出しはじめました。私は、森林散策、カヌー、写真などを趣味としていますので、春の訪れは一段と待ちどおしいものでした。期待に胸を膨らませた新入生諸君も加わり、キャンパスもしだいに賑わしさを取り戻すことでしょう。

近頃、本屋さんに行くと新書本がたくさんあることに驚かされます。こんな値段なら買って読もうかと思うようなものもけっこうあります。多様なジャンルの本が安価で入手できるようになったことは消費者にとってはとてもよいことです。しかし、私たち団塊世代にとっては、新書とはまず知的好奇心をわりと手軽に満たしてくれる教養書でしたので、軽めのハウツー本やライトノベルまでリストアップされると、いったいどうなっているのだろうか、つい思ってしまいます。それでも安く入手できるという点はメリットですので、「玉石混交」の中からよく吟味して、有益な本を探り当てるのもまた読書人のひそかな楽しみといってよいかもしれません。

「本の洪水」の中で、大学図書館が購入できる本はほんのわずかです。大学図書館は、教育・研究に資するという目的と限定された予算で選書を行なわなければなりませんので、原則として、専門書・教養書と判断しうるものはできるだけそろえますが、趣味・娯楽に属するものは個人で購入していただくか、地域の図書館に足を運んでいただくことになります。ただし、料理本のようなキャンパスライフに役立つものについては一部購入しています。専門書・教養書についてはそれなりの予算を確保しておりますので、どなたでも遠慮なく購入希望を提出していただくことを歓迎します。

さて、図書館長でありながらこのように言うのには多少のためらいがないわけではありませんが、本当に読みたい本は自分で購入して読むことをお勧めします。その本に詰め込まれた情報は著者の努力の結晶であり、それに対価を支払うということは、著者への敬意、知への敬意を表すことでもあります。またその本の内容を深く理解し、支払いの元を取るためには、本を汚す覚悟が必要です。私自身も常にしていることですが、どこにでも持ち歩き、重要箇所には下線を引いたり、書き込みをしたりする習慣を身につけることをお勧めします。そうしておけば、レジュメを作成したり、後で内容を再確認する必要が出てきたりしたときにとても便利です。ガラス細工に触るかのように扱い、棚に飾るのでは、宝の持ち腐れです。時々自分の書架を眺め渡し、昔に精読した手垢にまみれた本をふと手にしたとき、感無量になることがあります。もっと進んで、感動の大きかった本についてはその書評を書いてみるのもよいでしょう。この「書林」には学生諸君や教職員による書評が掲載されていますが、なかなかおもしろい企画であると思います。いっそのこと、図書館主催の書評・読書感想文のコンクールなどを行ってみたいかどうかと考えています。

ところで、本学図書館は60年余の歴史も持ち、館員を中心とする多くの教職員の努力で現在に至っております。本学図書館がめざしてきたことは、地域にも開かれた「利用しやすい図書館」であり、いつでも開いており、館員の対応が親切で、適量の本が開架になっており、必要な本が偏りなく配架され、他のメディアもバランスよく配置されているという点で、道内の大学図書館の中でも指折りの図書館であるといえます。学生諸君には、このような恵まれた学習環境を十分に活用して、勉学・読書に励んでいただきたいと思います。この間、2階閲覧室にPCを導入し、書籍・資料にアクセスしやすい場所でレポートを作成したり、議論しながら学習したりするという複合環境を整備してきましたが、この試みの成果には大きなものがあり、来るべき本学図書館の増改築の際にはこのような環境がよりいっそう拡張されることを期待しています。（4月3日、脱稿）

経営学部開設によせて

ビジネスマンは他者を思いやる心が大切。それを育てるのは読書から。

経営学部長 光 武 幸

あなたは毎日、朝に、昼に、そして夜に食事をとっているのではないだろうか。でも、あなたはどのようにして毎日食事を取らなくてはならないの、なんて考えないでしょう。食事は自分の身体を作り、免疫力を高め、健康に過ごすためになくてはならない大事な行為なのです。

あなたは心を豊かにするために、そして頭を健康に維持するために毎日食事をしていますか。その食事は、口から食べるものではありませんが、心にとって、そして頭にとってなくてはならない栄養を与えるものです。その食事は読書だと考えられます。

3度の食事と違い、読書については、なぜ、本を読まなくてはならないの、と考えている学生がいるかもしれません。しかし、今説明したように、読書は3度の食事と同じように、人間が心豊かに生きていくために、そして経営学を学びビジネス社会で活躍するために必要不可欠な食事なのです。

私たちが生きている間に経験できることは、ホンの僅かなことだけです。この僅かな経験だけで、物事を判断したり、多様な価値・ライフスタイルをもつ人々とコミュニケーションしたり、人間や生き物に対して愛情や深い洞察力を持ったり、過去の歴史の延長線上にある現在の経済社会を理解することは、とても難しいことだと思います。でも、私たちはこの不可能を可能にしてくれる方法があることを知っています。それが読書であることを長い歴史の中で理解してきたのです。

本を読まない、ということは、行間から滲み出ることには思いを馳せる訓練ができないということです。それは人とのコミュニケーションにおいて、他者への配慮に欠けることにも繋がります。大学での4年間、少なくとも100冊の本を読むことを目標に定めてみて下さい。読書に慣れていない時には、興味が感じられる小説から読み始めてみてはどうだろうか。読書の楽しさをまず、感じて欲しい。そして、経営学部生なら経営学の専門書を読むことに進んでいってください。そうすることによって、あなたが卒業を迎えるときに、新入生だった頃の自分が、如何に子供で世間知らず、独りよがりであったか、そしてようやく社会人としてビジネスに携わるのに相応しい大人になってきたことかと感じるだろうと思います。

最後に、建築家である安藤忠雄氏の言葉を紹介したいと思います。「先人の英知が詰まった本は、誰にも開かれた心の財産。それを自ら放棄するのはあまりに愚か。——知的体力も、社会人としての礼儀のひとつ」（朝日新聞09. 3. 4）。ぜひ、この言葉を心に刻んで、経営学部生として相応しい学生生活を送ってください。

大学生活の終わりに、卒業論文を書いてみたいかが？

本田 崇（2009年3月 経済学部経済学科卒業）

この度、卒業論文を書き上げて製本にしたことから、自分の経験を以下で述べたいと思う。

始めに、論文のテーマを何でも良いから決めなければいけない。例えば、「北海道の除雪費用が年間どれくらいかかっているか？」や「北海道で今売れている農産物は？」など、自分が関心を持ったテーマや社会で話題となっているテーマが良いだろう。特に、北海道を中心としたテーマが比較的書きやすい。それは、全国的なテーマだと、多くの人が調査しているからである。出来るだけ、北海道でしか調べることができないテーマが、読者は関心を持ってくれる。

次に、徹底的に調査をする。主に、データ収集や企業訪問である。特に企業訪問では、企業の取り巻く環境や現状の取り組み、そして今後の課題等について聞く。ここで注意したいのは、インターネットの情報だけであまり満足しないことである。それは、インターネットには必要な情報が的確にのってなく、誰もが知ることのできる情報しかないからである。そのため、現場の声を聴くことで、「生きた情報」を収集して伝えることが、注目される文章を書くために必要である。

その後は、企業訪問で集めた情報をベースにして図表を作成する。その図表から、推測できる現象や比較できる数値・事柄を文章にしていく。卒業論文のおおもととは、こうした情報収集と文章化の繰り返しである。

ある程度、文章や図表が出来上がってきたら、今度は文章の構成を考えてみる。例えば、1 ページの中だけで、文章の構成をまとめてみる。最初に、「なぜその研究をしたのか？」、その目的や調査内容をはっきり示す。また、「調査内容と現状がどのように関連しているのか」を示すことで、この研究における必要性を認識させる。そして、「企業または行政がどう取り組んでいるか」を指摘して、今後の解決策や対応策へ結び付ける。

こうすることで、1 ページの中でまとめ上げられた構成は、これからの文章の基本ベースになる。つまり、これを軸として、その後は枚数を膨らませていくだけである。

さらに、文章の膨らませ方として、企業訪問を重ねるだけでなく、関連する事柄を上げるか、比較することである。先程の「北海道の除雪費用」の件で言えば、市ごとの除雪の仕方や年間費用の違い、地域ごとの積雪量や除雪量、他にも市民の負担や軽減措置の違いなど、色々なものを比較する。それにより、地域ごとの特徴が見えてくる。他にも関連する法律や制度に触れることで、どんどん文章を膨らませていく。

ここで、卒業論文を書くときの、基本動作について触れておく。卒業論文の枚数は、一般的に図表と文章を含めて 50 ページくらいである。図表の割合は自由であるが、2～3割が1つの目安となる。

それ以外にも、情報整理が非常に重要である。パソコンの「マイドキュメント」には、キーワードごとにファイルを分類しておく。例えば、ファイルに「北海道」と記録して、そのファイルの中の図表も、「除雪費用」や「積雪量」と明記する。市ごとに分けるなら「北海道」から、さらにファイルを作成して、市ごとに図表を整理する。

その後、文章が仕上がるに連れ、図表の構成がまとまっていれば、それも整理する。例えば、図表に「Z01 除雪費用」や「H01 積雪量」など図と表を分けて、番号とキーワードを付けて整理しておくことも重要である。図と表を別々に整理するのは、文章を作成していくにしたがって、これらを追加したり、削除したりすることが面倒臭くなるからである。

他にも、卒業論文を作成する上で注意しておきたいのは、企業へ電話することである。最初に、大学・学部・氏名を名乗り、必ず自分の目的と研究テーマを明らかにする。企業にとって、貴重な時間を割い

てくれるので、用件を簡潔に説明しなければならない。それから、収集手段として直接訪問なのかメールか、事前に打ち合わせする。企業訪問を終えた後でも、情報は必ずその日の内に整理しておくことも重要である。以上が、卒業論文を書く際に、注意してほしい点である。

最後に、卒業論文を書く必要性について述べておく。一言で言えば、主張である。自らが考えて意見を述べるための能力を磨くことができる。これは、社会に出て非常に重要な意味を持ってくる。高校生と違い、与えられたことを覚える、受動的な立場と異なり、大学生では自分の意見が主張できる、能動的な姿勢が求められるからだ。その際、考えがあっている、間違っているかではなく、自分の考え・主張を貫くことが重要である。

卒業論文を作成すると、充実感が味わえて、自信がついてきます。ぜひ、卒業論文を書いてみて下さい。

(本田崇くんの卒業論文は図書館の4月展示「大学生活 NAVI」で展示しています。)

学習支援室から～私の図書館活用法～

図書館の利用法とは

高島 博史（大学院臨床心理学研究科2年、
学習支援室 院生相談員）

図書館は「静かに本を読み、静かに勉強する所」というところが一般的です。しかし、これだけが利用法ではありません。僕は勉強する場としてだけでなく「休む場所」として利用していました。

図書館の入り口にはラウンジがあります。ここは格好の休み場で、自販機で飲み物を買った後に椅子に座り、新聞を読むことができます。新聞もスポーツ新聞や英字新聞、他には青森や沖縄の地方紙など、バリエーションに富んでいます。

また、別に新聞を読むだけが休むということに当てはまるわけではありません。一般的にラウンジは館内で勉強して疲れた時に休む場所となりますが、友人を連れて雑談場所にしたり、待ち合わせ場所にしたり、昼食をとったり、利用の仕方はあなた次第で自由に变化するでしょう。

皆さんも周囲の人に迷惑のかからない程度に（これ重要！）ラウンジも自由に試してみてはいかがでしょうか。



図書館ラウンジ



グループ学習室

生かすも殺すもあなた次第！！図書館利用法！？

前田 宗逸（大学院法学研究科1年、
学習支援室 院生相談員）

大学での研究・学習において、図書館ナシには何も出来ません。特に、レポート・レジュメ・論文は、書籍・雑誌などの文献を頼らずして作成するのは無理と言っておきます。「インターネットを使って調べれば、出来るんじゃない？」とお思いのそこのあなた！！確かに、インターネット上には膨大な情報量があるから、A4用紙2～3枚程度はあっという間に出来るでしょう。しかし、そのインターネットで調べた情報が“間違いのない物”と言い切れますか？レポート・レジュメ・論文は他者へ発表する上で、その発表の内容には“根拠”が必要です。誰が、何を、元にして載せたのか分からない、インターネット上の情報を根拠として使うのは、自分だけでなくその発表を聞いた他人までも誤った事を認識する可能性がある（まあ大抵、先生が訂正してくれますが・・・）。なので、学習に関する調べ物は書籍・雑誌などの文献を使うようにしましょう。そのための図書館だと思えば、自然と使い方も分かってくると思います。

この先は、僕の図書館！？（の本）の活用法ですが、通学に片道40～50分程度時間がかかるため移動時間に、図書館で借りてきた学習・研究に関する本、または、単に読みたい本を読んでいます。1日1時間半を読書に費やせるので1週間で3～4冊読めますよ？「勉強する時間がない！」と嘆いている人！今1度時間の使い方を見直してはどうでしょう？また、自らの手で字を書くことが少なくなっている現代、知らぬ間に活字から離れてしまっていることも少なくないと思います。そういう点においても、本を読む時間を作ることは大事だと思います。

これまた自分流の図書館利用法ですが、書店にある本でも、図書館にある本は買わずに借りる！！学生はお金がありませんし、お金を稼げてもたかが知れています。なので、財布に無理をかけず借りちゃいましょう！貸出し期間に読みきれないのであれば、更新！！そして更新。コピーもあり！（でも謄本は×。著作権法にひっかかります）

図書館の利用法はこれだけではありません。利用者10人いれば10通りの利用法があるはずです。ぜひ皆さん自身の図書館利用法を見つけてみてください。



第1閲覧室 DVD 書架

『宝石泥棒の告白 怪盗メイソン』

ビル・メイソン、リー・グルエンフェルド 著

田村 明子 訳

2006 年 7 月



“事実は小説よりも奇なり”とは、正にこの事である。映画化すれば、きっと面白い作品になるに違いない。

映画化された犯罪者の告白物と言うと、レオナルド・ディカプリオが希代の詐欺師を演じた、「キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン（原作は“世界をだました男”）」を連想する方もいるだろう。

だが、怪盗ルパンの如く、華麗に大勢の富豪の家から宝石をさらって行った宝石泥棒が自ら筆をとった本書も、先述の作品にひけをとらないくらい、否、それ以上に興奮させられる。

彼は実に30年近くも宝石を盗み続けた。ところが、彼は一度も窃盗罪で起訴されたことがない。宝石泥棒であったにも関わらず！

更に彼の成功度を示す一文が著者紹介の欄に書かれている。

「おそらくアメリカ史上、最も成功した宝石泥棒。」

ここまで誘い文句を並べられて、読まずに素通りすることが出来るだろうか？少なくとも、私には無理である。

その宝石泥棒の名はビル・メイソン。宝石や貴金属だけを盗んだ、凄腕の怪盗。

彼の卓越した、目を見張るその技術は、当時の警察官たちに、メイソン氏のみによる単独犯行であるにも関わらず、「犯人たち」とマスコミの前で堂々と言わせた程である。

メイソン氏が宝石泥棒として、これ程までに成功した理由は、その慎重さであった。

まず新聞の社交界欄をじっくり読み、誰がどんな宝石や貴金属を身に着けているか、日頃から常にチェックする。

次に、ターゲットの自宅や滞在している宿泊先を調べ、建物の構造や侵入経路、一番安全な逃走経路など、入念に事前調査を行う。勿論、ターゲットの生活習慣を知るために尾行するのは当たり前だ。その細かなチェックに私は感心すると同時に、舌を巻かれる思いだった。

やがてターゲットが部屋を留守にした時、宝石泥棒はやって来る。

たとえコンドミニアムの玄関ホールに警備員がいても、彼の普段から鍛えられた体力と、子供時代、彼の父親が管理していたアパートメントにやって来る修理人たちから教わった錠前の技術があれば、侵入経路はいくらでもある。時には、嵐の中、地上をはるか彼方に見下ろしながら僅かな縁の上を歩かなければならないこともある。スタントマンでなければ挑戦しないような道のりを、彼はたった一人で、何度も歩んだのだ。

想像してほしい。一步踏み外せば、硬い地面に叩きつけられるかもしれない恐怖を。メイソン氏もその時を振り返り、冷静さを保つことに努めたそうだが、並大抵の精神力では出来ない芸当である。こうまでしても進みたいと思わせるのは、やはり目の前に宝石があるからだだろう。

そして、ターゲットの部屋の前に辿り着くと、彼の器用な指先と小道具たちが登場する。

無事、厳重な警備の目に捕らわれることなく、誰もいない部屋に入ると、彼は宝石が保管されている部屋をくまなく探す。

遂に高価な宝石が置かれている部屋を発見した時、これこそまさに至福の瞬間であると彼は嬉しそうに述べている。

「驚いたことに大きな宝石箱がタンスの上に置いてあった。（中略）この瞬間こそ、私が宝石泥棒に

なった理由だった。誰もが絶対に侵入不可能と思っている場所にいるのは、恍惚感に満たされる思いだ。」

宝石泥棒の目を通して事実を知っている我々読者とは反対に、被害者や当時の警察官たちは、魔法のように宝石類や貴金属だけが消えたことに、ただ驚くだけであった。笑えることに、彼らは「犯人はハエ人間に違いない」とまで言っているのだ。

そんな宝石泥棒には、優秀な不動産管理人という、もう一つの顔があった。

彼の不動産稼業は成功を収めており、裏稼業をせずとも充分に暮らしていける収入があった。それなのに宝石泥棒になった理由は、彼が自認する通り、重症の“スリル中毒”であったからだ。

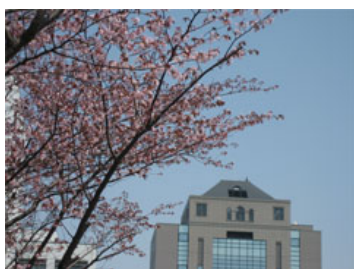
優しい妻と3人の子供に囲まれ、家庭を大事にする父親という面と、宝石泥棒という面。

この二つの間をゆれ動くメイソン氏であったが、いつまでも妻や警察の目を誤魔化すことは出来なかった。

警察がメイソン氏に仕掛けた罠は、読者の目から見ても明らかに陰湿であるが、その後起こる、あまりお行儀の良くない二人の弁護士との出会いや、警察サイドの幾人かと結ばれた友情や逃避行など、彼の人生は実にドラマチックである。

最後まで飽きさせない体験の数々と、ユーモラスな語り口には誰しものが魅了されるに違いない。

そして、全国の警備会社や建築家は、是非とも本書を参考に、第二のメイソン氏に負けないような防犯対策を強化していただきたい。



50 年記念館（G 館）



50 年記念館 (G 館) 前



50 年記念館 (G 館) 前から見る図書館

『眠れぬ真珠』

石田 衣良 著

新潮文庫 2008 年 12 月

私は真珠の女になりたい。

物語の前半に、こんな話が出てくる。「女は、二種類に分かれるの。ダイヤモンドの女とパール（真珠）の女。」ダイヤモンドの女は光を外側に放ち、パールの女は光を内側に引き込むタイプを指す。男の幸せを掴むのは、誰にでも値段の分かるゴージャスなダイヤモンドの女であり、真珠の価値が分かる男などめったにいないのだという。

この本の主人公、咲世子は光を内側に引き込む、真珠の女。45 歳の独身。結婚は 1 度失敗して、それっきり。彼女は自分の好きな、版画を仕事にしてこれまでを、そしてこれからも生活していく。そんな人生の後半に訪れた、17 も年下の男性との恋愛。物語はそうして始まっていく。

これは、男性の書いた恋愛小説である。だから、苦手だと思う人もいるかもしれない。事実、私は男性が書く小説よりも、女性を書いた、柔らかなタッチで描かれる小説の方が好みだ。もちろん、私の好きな作家の中には男性も女性もいる。しかし、恋愛小説を読むとしたら、私は女性作家のもののほうが好きだ。でも、この「石田衣良」の書いた恋愛小説は、別。私は、初めてこの本を読んだ時、作者が男

性ということに驚いたものだった。文章が繊細で柔らかい。何より、この小説でキーワードとなる、「更年期障害」についての記述は、まるで体験したことがあるのではないかと、思うほどリアリティに溢れていた。「更年期障害」とは、女性が閉経を控えてホルモンバランスが崩れ、色々な症状が身体に現れることだ。咲世子も人より少し早い、更年期障害に悩まされているという設定がなされている。だから、作中にも何度かその記述がなされるのだが、それが男性が書いたとは思えないのだ。自分の身に起こった事を書き記している、そのように感じてしまう。男性が「更年期障害」が分かるのか？作家とはやはり、想像力が豊かなのだろうと考える。そのような、繊細さ、女性の描き方から、この作品は女性を書いたように思われたのだ。そして、私はこの作品に没頭していくことになった。

冒頭に書いたように、この作品中、咲世子のお世話になっている町枝ママが彼女に対し、女に関しての自論を話す場面がある。それが「ダイヤモンドの女とパール（真珠）の女」のくだりである。では、その女性が持つ「光」とは何なのか。私は、それを若さではないかと考

えた。咲世子は自分のやりたいと思った版画に没頭し続け、人生の酸いも甘いも経験してきた。良い恋愛や付き合いを重ね、自分の表現を模索することの出来る「版画」があること、そして、少なくとも上質な恋愛を重ねることで心が若くなり、生き生きすることができた。だから、彼女は「パール（真珠）の女」となれたのではないかと、考える。逆に、「ダイヤモンドの女」とは若さを表に出し、派手に着飾るが中身は生き生きしていない女性のことを指すのではないかと、解釈した。

だから、私は、良い経験を重ね、自分を模索し続けたい。だから真珠の女になりたい、そう思った。



『モリー先生との火曜日』

ミッチ・アルボム 著

別宮 貞徳 訳

日本放送出版協会 1998 年 9 月



私の薦める 1 冊は、ミッチ・アルボム著の『モリー先生との火曜日』である。他の書籍で薦められていた本であったため、読んでみたのがきっかけであったが、モリー先生の講義は興味深く、私は気付くところの一冊を一気に読んでいた。この本はノンフィクションである。

スポーツコラムニストとして活躍するミッチ・アルボムは、偶然テレビで大学時代の恩師であるモリーを見かけた。モリー先生は、難病 ALS(筋萎縮性側索硬化症)に侵されていた。ALS には治療法がない。他の選択肢はなく、死を迎えるしかない。死を目の前にしたモリーは、これからどうするか答えをさがし始めたが、病気は日に日に体を侵していく。モリーは心の中に深く思い定めたものがあつた。それは、希望をなくして消えていくか、それとも残された時間に最善を尽くすか——。モリーは死を人生最後のプロジェクト、生活の中心に据えることにした。誰もがいつかは死ぬ、だから自分は他の人の役に立てるのではないかと考えた。

研究対象、人間教科書に。そう決めたモリーは、だからこそテレビに出演したのである。以前のように元気ではない、だがまだ死んでもいない中間の存在として。人の役に立つために。

16 年ぶりに再会したモリーとミッチの授業が毎週火曜日行われた。モリーの授業に教科書はない。テーマは「人生の意味」についてである。単位はもらえないが、毎週口頭試問があつた。参考文献はいらないが、題目は様々で、愛、仕事、社会、家族、老い、許し、死にまで及んでいた。

私が特に心に残っている講義は、後悔についてである。ミッチは、死を迎えようとしているモリーの心残りは何かと尋ねた。ミッチは、自分がその境遇になったら悲しみにさいなまれるか、ずっと心の中に隠していた秘密が悔やまれるだろうか、どうなるかわからなかったからである。するとモリーは、「今日がこの世で最後の日だったらどうする？」とミッチの顔をさぐる。今のような文化状況では、死ぬ間際にならないとこういったことにまで気は回らない。仕事のこと、家族のこと、金のこと、ただ暮らしを続けるために数知れないことに関わっていかなければならない。これでは、ちょっと立ち止まって反省する習慣がつかない。自分がやりたいことはこれだけか、何か抜けているのではないか、時には考えることが必要であるとモリーは語っている。確かに、今の文化状況では毎日の生活に追われ、自分は何をやりたいか考えることは難しくなっていると私は思う。毎日を過ごす中で、少しでいいから立ち止まって自分が本当にやりたいのは何なのか、何が必要・不要かを考えるだけで後悔は少なくなるはずである。

ミッチはモリーのような人生のコーチに出会えたことで人生が変わったであろうし、幸福なことであると思う。誰もが人生のコーチに出会えるわけではないだろう。なおさら、この本を読んで、モリーの講義について自分に当てはめて一緒に考えてみてほしい。

この本は人生の教科書として読んでおくべき本であると感じた。より多くの人々に読んで頂きたい。

（高橋芳さんは 2008 年度法学部学生顕彰論文・評論で第 3 席に選ばれました）

『星新一 一〇〇一話をつくった人』

最相 葉月 著
新潮社 2007年3月

作家、星新一のショートショートは誰もが子供のころに一度は読んだことがあるだろう。この本はその星新一の誕生から晩年までを著者の最相葉月が生前の膨大な資料を調べて書いた評伝である。星新一という作家は1001篇を超えるショートショートを残し、多くの人に知られる作家だが彼がどういう人だったか知る人は少ない。実際彼は星製薬という大企業の社長の息子でかなりのお坊ちゃん育ちをしていた。しかし、20代のときに父親が急死し会社を受け継いだときには、会社の経営状況は最悪で倒産寸前になっていた。なんとか経営を立て直そうと新一も奔走するが結局は経営困難で他人に会社を明け渡してしまう。その後、柴野拓美との交遊がきっかけでSF同人誌の「宇宙塵」に小説「セキストラ」を掲載。その小説が江戸川乱歩に才能を見いだされて本格的な作家デビューとなる。このときのことを本人はのちにこう書いている。



「この時はじめて、私は作家になろうと思った。それ以外に道はないのだ。会社をつぶした男を、まともな会社がやとってくれるわけがない。あこがれたあげく作家になったのではない。ほかの人とちがう点である。やむをえずなったのだ。背水の陣ではあったが」

私が星新一を初めて読んだのは中学生の時で、図書館にあった「星新一ショートショート1001」という本の装飾が気になったのがきっかけだ。読んでみてその簡潔な文体と魅力的な内容に引き込まれて、全3巻で各巻1600ページ近くあるその本をあっという間に読んでしまった。そのあと、同じ図書館にあった星新一の長編やエッセイなどを読みつくし、一時期彼の本ばかり読んでいたことになる。それほど思い入れのある作家だが、この本を読んでみて自分の思い描いていたイメージとだいぶ違うのに驚いた。彼のエッセイなど読んで抱いていたイメージは自分の作家としての地位に誇りを持ち書き続けている人だったが、実際にはかなり作家としての地位に悩んでいたようだ。上記の作家に憧れてなったわけではないという文章もそうだが、デビューしたまだ間もない頃、新聞のインタビューで次のように述べていたのが興味深い。

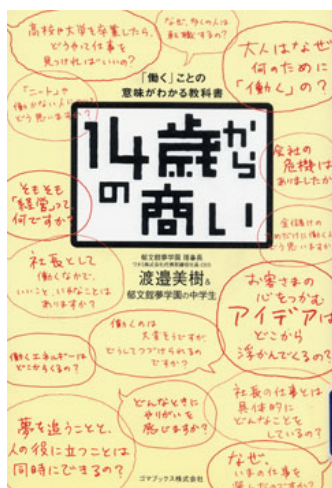
「無理して乱作すれば、コントに落ち込む危険がある（中略）ぼくはショート・ショート作家のレッテルを張られてしまったが、こんなブームはすぐに終わるでしょう。そうしたら、本格的なものを書きますよ」

はじめはこんなことを言っていたが、あとにはショートショートの第一人者としての自覚が出てきたらしい。作家仲間の眉村卓が「ひょっとしたらこれからは星新一がショートショートの代名詞ではなくなる時代がくるかもしれませんね」という言葉を言ったのに対し「それ位なら死んだほうがましですよ」という発言を残している。個人的には星新一が文学賞を欲しがっていたエピソードが興味深かった。デビュー時は直木賞候補になったり、「妄想銀行」で第21回日本推理作家協会賞をもらったりしたもののSF関係の賞は全くもらえず、作家仲間だった筒井康隆が多くの文学賞をもらっていくのに嫉妬をあらわにするとところはなんだか人間としての星新一を見せられたような気がした。他にも多くの面白いエピソードが書かれており、昔一度は星新一を読んだことのある人にはぜひ読んでほしい一冊である。

『14 歳からの商い 「働く」 ことの意味がわかる教科書』

渡邊 美樹 著

ゴマブックス 2008 年 7 月



あなたの夢は何ですか？

この質問に回答することは、そう簡単なことではないと思います。なぜなら、「夢」とは頭の中で漠然と考えても、簡単に見つかることではないからです。実際に「大学生活をなんとなく過ごしている」という学生さん多いと思います。しかし、私は人生 1 度きりの大学生活を有意義な 4 年間にしてもらいたいと考えています。勉強に、部活動に何でも良いので目標を持って活動し、卒業時には「札幌学院大学に来てよかった」と思ってもらえることを願っています。そんな私からは「14 歳からの商い」という本を紹介いたします。本書はワタミグループの経営者であり、郁分館夢学園の理事長でもある、渡邊美樹社長が「働くこと」「夢」などの中学生が考える素朴な疑問に丁寧に答え、とても読みやすくお薦めの 1 冊です。

本書の中でも最も関心を持ったのは、学校の授業と将来の仕事についての結びつけ方について書かれている部分です。私は、去年ま

で本学の学生でした。私が在学中にした勉強といえば、講義の内容を覚えることでした。しかし、目的は単位を取ることが目的であり、決して将来の職業について考えて単位を取っていたわけではありません。しかし、これでは将来の仕事に結びつけることが難しいと、本書を読んで気づきました。大学を卒業してから仕事を見つけようとするのではなく、仕事を見つけるために勉強し、やりたいことを見つけたら、その準備をするために勉強するのが本来の姿のようです。大学の講義についても、「単位を取るため」という考えを捨て、これを学んだことで社会でどう役立つだろうか、と考えることも良いのかもしれません。実際に働いている場面では、もっと大学の講義を真剣に学んでおけば良かったと後悔することも少なからずあります。

とはいっても、前述した通り「私は夢がない」という方もいると思います。「夢」というと大事に聞こえてしまいがちですが、日常にも小さな楽しみから夢を広げてみてはいかがでしょうか。渡邊社長自身も「世の中のおじいさん、おばあさんが笑顔で暮らせたらいいな」とか「生徒たちが毎日楽しく授業を受けて学園生活を送れたらいいな」と考えているそうです。

最後に、誰でも挫折をしたことがあると思います。しかし、渡邊社長によると失敗や挫折は、「失敗」「挫折」だと思ってしまうから失敗挫折になるとのことです。「私は、ちょっと寄り道しただけだ。絶対、この教訓を生かしてやる！」という前向きな姿勢が大切なのかもしれません。

4 月になり新学期が始まりました。新入生が入学してきた一方で、4 年生は就職活動の真っ最中かと思っています。新入生には少しでも早く大学の環境に慣れ、有意義な大学生活になることを願っています。4 年生は自らの希望する職種を見つけ、就職活動が大成功に終わることを御祈りしております。



第 1 閲覧室 雑誌書架

『最後の授業 ぼくの命があるうちに』

ランディ・パウシュ、ジェフリー・ザスロー 著

矢羽野 薫 訳

ランダムハウス講談社 2008年6月

もし、あなたが余命半年と宣告されたなら、何をしますか？

私は間違いなくしばらくの間何も考える事が出来ず、現実逃避する日々がただただ流れ、何かをするという気力すら起きないような気がします。しかし、この本に描かれているランディは少しの時間も無駄にせず、さまざまなメッセージを残してくれるのです。

私は正直日ごろから本を頻繁に読むほうではありません。しかし、ある日何気なくテレビを見ていると彼のドキュメンタリーを放送している番組がありました。残念な事に私がその事に気付いたのは放送終盤で、唯一、本が出版されている事だけを聞き取りました。すぐさま本屋へ出向き、読んでみたいという衝動に駆られたのです。



というのも7年前、30歳という若さで私は親友を亡くしました。肺腫瘍でした。二度の手術をし、約8年間もの闘病生活をした後の結果でした。当時、たいへん仲良く闘病生活中でも、調子の良い時には自宅療養が認められ、よく遊んだものです。その親友は普段から弱音を吐かず、周りの人間の事を考え、場を盛り上げるタイプでした。しかし、そんな親友も一度目の手術から数年経った時、転移が見つかり、唯一弱音を吐いたことがありました。後にも先にもその時だけ...しかし、その時の私はうまく励ます事が出来なかった事を今でも後悔しています。もし、もっと早くこの本に出会えていたら、もっと良い言葉を掛けてあげる事が出来たような気がします。

ランディは大学の教授をし、小さな頃から自分の夢をかなえようと人生を送ってきました。自分のやりたい事のために生きる。そんな男でした。そんな彼も恋に落ち、最愛の人と結婚し、3人の子供にも恵まれました。しかし、そんな彼を膵臓癌という病気が襲います。癌は他の場所にも転移し余命宣告を受けます。もちろん宣告を受けた直後は呆然としますが、彼はすぐにこれからの事を考えました。呆然としている暇はないのです。時間は限られています。1分1秒とも無駄には出来ないのです。彼は自分の癌を「エンジニアリング上の問題」と称し、彼なりの表現方法の手段として大学での最後の講義を行う事を決めました。講義では時間が決められているため、もちろん話す内容も限られます。そこで、彼は最後の講義で話す内容を「子供のころからの夢を本当に実現するために」というタイトルにしたのです。癌のことでもなく、家族のことでもなく、もちろん研究の事でもなく...彼は自分の夢をいかに実現してきたかという事を講義の時間いっぱいを使って話しました。普通は前段に挙げた内容で講義をしそうなものですが、彼の本当の答えは最後に残されていました。

「最後の講義」の本当に最後に明かすのですが、彼の「最後の講義」は実は彼の3人の子供に向けてのメッセージだったのです。彼は余命宣告を受けてから幼い3人の子供に向けてのメッセージを、いかに多く、そして、愛情いっぱいに残せるかをずっと考えていたのだという事がここにきてわかりました。私自身、今後、ランディのような状況に立たされるかはわかりませんが、この本を読んでランディから人生においてさまざまなヒントを学んだような気がします。自ら命を絶つ人が絶えないこの世の中にいて、ランディのメッセージが少しでも多くの人に届き、少しでも何かを感じて欲しいと願って止みません。

最後にランディは2008年7月25日47歳という若さでこの世を去りました。彼が亡くなった今も、この「最後の講義」の様子がYouTubeでアップされています。今後少しでも多くの人に彼のメッセージが伝わる事を願います。また、少しでも気になった人はぜひ見て欲しいと思います。

あなたは誰にどのようなメッセージを残しますか？

鈴木 健太郎くん（人文学部人間科学科4年）



「芝居は就活にも役立つと思う。」

ある日、著作権について図書館のカウンターに質問に来たのが、劇団 Son' s Sun（サンズサン）の鈴木くんでした。

彼は疑問点を自分で調べた上で、その確認のために来たのですが、それはとりもなおさず、自分の頭でものを考える姿勢の現われでした。

——昨年の第23回公演「LABEL—スピーチ奮闘メモリアル—」では脚本を書いていますね。

「脚本もそうですが、ぼくのなかでは文章を書くことは悩みを解決する手段でもあるのです。自分一人で悩んでいても壁にぶつかることが多いですけど、本を読んだり、文章にしたりすることでそれが解決できると思います。」

——今の若い人は一般的にあまり悩みなどないように見えます。というか、悩まないようにしているというか。

「それは色々な面でこの程度でいいと思っているからではないでしょうか。だから壁にぶつかっていないと思います。例えば、「元カノ（カレ）よりニューカノ（カレ）」とTVでやっていましたが、ぼく自身は、ふられた時はどうしてふられたのかと悩みます。怒られた時はどうして怒られたのかと考えます。でも、なかなか答が見つからない。それを克服したくて本を読んだり、文章を書いたりしてきました。」

——『悩む力』のように悩むことを肯定的に捉える本も出ています。

「ぼくがサンズに入った頃は、本ばかり読んでいて行動が伴っていない、と先輩から怒られた事があります。その時はかなり落ち込みましたが、色々な本を読んで解決の方法を探りました。例えば齋藤孝先生の本を読むと、考えるという作業を身体的な行為に置き換えなさい、と言っています。その身体的な行為が、ぼくの場合は芝居でした。だからぼくは芝居をとおして悩みや問題を解決していくように心がけています。実際はなかなか難しいですが。」

——人前で上手く話せるようになるにはどうしたらいいでしょう。

「色々な方法があると思いますが、ぼくは自分と向き合うことが大切だと思います。下手なところは絶対直すという強い意志も必要ですし、実際に人前で話す場面では、やはりリラックスして話せるかどうか重要です。それから話す上での技術的なことを人から盗んでも、それをいかに自分のものにするか、自分の血肉にするか、ですね。そうでないと聞いている人から見透かされてしまいますから。そう考えていますけど、なかなか実践できていません。（笑）」

——ところで、サンズサンに入ったきっかけは何ですか？

「ぼくはもともと人前で話すことが苦手でした。でも、だんだんとその怖さと同時に面白さも分かってきて、これは中学生の時ですが、生徒委員の選挙で候補者の推薦文を書き、それをみんなの前で読み上げた事があります。とてもゆっくりと、くまのプーさんのような感じで。これが受けました。そのへんからですね、人前で何かをやることに興味が湧いてきたのは。それで大学に行ったら



芝居をやろうと思っていました。」

——サンズサンの基本的な活動を教えて下さい。

「今、部員が 20 名位（注：2008 年度の部員数）で、一応週に 3 回位稽古をしています。公演は年 2、3 回ですが、誰かが脚本を書いたり、演出をやったり、役者をやったり、スタッフとして大道具や照明をやったり、色々やります。」

——今、春休み中ですが、まわりは就活モードに入っていますね。

「焦りはないです。就活でいえば、学生も面接の質問を予想して勉強していますけど、マニュアルにない予想外の質問がきたら答えられない、ということもあります。以前「職業と人生」という講義でグループディスカッションをしたことがあります。先生から自由にディスカッションして下さい、と言われて、ぼくは一度黙って見ていたら 5 分位みんな黙ったままなんです。ぼくは自己紹介をすることをきっかけに話の輪を広げていきました。ちょっとしたことなんですけど。日々解決法を意識して本を読んだり、人の話を聞いたりしていれば、そういう場面でもあわてないと思います。」

——サンズサンの活動もそういう意味では色々と役に立っているのですね。これからの活躍を期待しています。

〔僕の問題解決法〕 ⇒ 現状認識 → トレーニング → ゴール

—— 齋藤孝

書を携えて旅に出よう！

菅原 真紀（図書館）

皆さんは旅行に行くとき決めた時、まず何をしますか？ ガイドブック、ネットでの情報集め、さらにはクチコミ情報でしょうか。図書館では最新の旅行ガイドを豊富に揃えておりますがそれだけではありません。今回は旅行の下調べや帰ってからの再確認に強い味方になってくれそうな資料をいくつかご紹介しましょう。

筆者はトルコの Cappadocia を訪れた際、現地ガイドのご好意でトルコ人の家庭に招かれました。この地区は火山灰が固まってできた凝灰山が風雨にさらされ、まるでエリンギがたくさん並んでいるような景観を成しています。住民はこの岩山を削って住居としているのですが、外は 40℃ を超える猛暑でも家の中はひんやりと天然クーラーのような快適さでした。この伝統的な洞窟住居の詳しい解説が『世界の住文化図鑑』（ポール・オリバー著；藤井明監訳 東洋書林 2004）に掲載されています。家屋を建設するまでの作業工程、機能についての理解を深めることができ、人間の創意工夫に改めて感心したものです。

美術館めぐりに関心のある方は『世界美術大全集 西洋編、東洋編』（小学館 1997）がおすすめ。巨匠の代表作はもちろん、古代の遺跡から現代の壮麗な建築物、金銀細工の工芸品の名品など多様な題材が、ダイナミックな写真と詳しい解説付きで取り上げられています。絵画の一部を拡大したディテールも、作品の鑑賞に役立つでしょう。

ロンドンで人気の観光スポット「マダム・タッソー館」には芸能人、スポーツ選手、歴史上の人物を精巧に再現した蝋人形があります。16 世紀の英国王ヘンリー八世を取り囲む六人の妃の人形も展示されていました。『ヘンリー八世の六人の妃』（アントニア・フレイザー著；森野聡子、森野和弥訳 創元社 1999）には、離婚、結婚を繰り返したヘンリー八世と六人の妃の波乱に満ちた人間ドラマが展開されています。本の肖像画と蝋人形を見比べると表情や衣装が忠実に再現されていることにも驚かされます。

もっと詳しくヘンリー八世の時代を知りたい方は、映画『わが命つきるとも A man for all seasons』（フレッド・ジンネマン監督 1966）をご覧になってはいかがでしょうか。イギリスがローマ・カトリックと絶縁し、イギリス国教会を建立するまでのあらましが、トマス・モアの信念を通して描かれています。こちらは館内でゆっくりどうぞ。

旅行先ではたとえ片言でも現地の言葉を喋ってみると、相手が笑顔で応じてくれます。筆者もパリのブティックで靴を買おうとした時、一部のスタッフは接客中、他のスタッフも書類仕事に追われ全く相手にしてくれません。「すみません。どなたか手の空いている方はいませんか？」とフランス語（のつもり）で声をかけるとガラッと態度が変わり、すぐに対応してくれました。事前に読んでおいたフランス語入門書のフレーズが頭に浮かび目的を達成することができたのです。

ガイドブック+αの情報収集がアドベンチャーの始まりです。皆様も関心のおもむくまま様々な資料とふれあい、旅先では多くの人や文化遺産とふれあい、旅の醍醐味を味わって下さい。



建学記念館



建学記念館前

2008年度 図書館利用統計・蔵書統計

表1. 開館日数 (日)

	通常開館	休日開館	短縮開館	開館合計	休館	総計
2006年度	192	43	95	330	35	365
2007年度	190	42	91	323	43	366
2008年度	194	42	94	330	35	365

*2007年度は麻疹対策のため7日間の臨時休館を実施した。

表2. 入館者数 (人)

	9:00～17:00	17:00～21:30	合計	1日当たり
2006年度	254,290	59,828	314,118	951.8
2007年度	237,167	51,414	288,581	893.4
2008年度	261,365	60,046	321,411	974.0

表3. 館外貸出者数 (人)

	学 生	教職員	その他	合 計
2006年度	26,587	2,565	1,502	30,654
2007年度	23,368	2,492	1,202	27,062
2008年度	22,427	2,880	1,232	26,539

表4. 館外貸出冊数 (冊)

	学 生・院 生	教職員	その他	合 計
2006年度	54,329 (学生・院生1人当: 11.0)	8,823	3,994	67,146
2007年度	49,889 (学生・院生1人当: 10.7)	8,691	3,284	61,864
2008年度	47,473 (学生・院生1人当: 10.7)	10,747	3,422	61,642

*学生数は各年度5月1日の在学生数

表5. 2008年度館外貸出冊数の内訳 (冊)

	学生・院生	教職員	その他	合 計
和 書	45,351	8,334	3,397	57,082
洋 書	442	1,837	25	2,304
雑 誌	1,680	576	0	2,256
合 計	47,473	10,747	3,422	61,642

表6. 相互協力 (件)

	文献複写		現物貸借	
	複写依頼	複写受付	貸借依頼	貸借受付
2006年度	1,140	2,621	315	498
2007年度	669	2,687	279	513
2008年度	998	2,682	379	497

表7. 蔵書冊数 (冊)

	和書	洋書	図書合計	視聴覚	総合計
2006年度	386,385	121,015	507,400	22,070	529,470
2007年度	399,313	122,651	521,964	22,832	544,796
2008年度	411,702	123,096	534,798	23,194	557,992

2008年度受入冊数: 16,197冊 (図書・製本雑誌・視聴覚資料)

4月から新國先生に代わり、西尾先生が図書館長に就任されました。巻頭では西尾先生にお書きいただきました。また、新しく経営学部が開設されましたが、経営学部長の光武先生からも学生へのメッセージを書いていただきました。今回は「自著紹介」はお休みです。その分、学生の方々にいつもより多く書いていただきました。みなさんありがとうございました。「私の図書館活用法」と題して学習支援室の院生相談員のお二人にも書いていただきました。「卒業論文を書き終えて」の本田崇くんは前号の「私の薦める1冊」に続いて書いていただきましたが、卒業を控えた時期にご迷惑をかけました、社会に出てからも持ち前の粘りで頑張ってください。また、「Welcome to SGU Library」の鈴木健太郎くんには何度もご足労いただきました、ありがとうございます。

さて、毎年この時期、新入生の皆さんは期待と不安の入り混じった気持ちだと思います。大学ではガイダンスや合宿オリエンテーション等で不安の軽減に努めていますが、図書館でもクラス単位で新入生オリエンテーションを実施しています。図書館の概要やマイライブラリ、OPACの使い方等を説明し、館内ツアーをやっていますが、新入生の皆さんは多分まだピンとこないかもしれません。高校まで図書館をそれほど利用したことがない人も多いでしょうし、大学での図書館の利用はその内容も多岐に渡ります。しかし、やがて大学生活と図書館との密接な関係がわかるようになると思います。そして、それぞれの図書館活用法が見えてくると思います。ぜひ自分の図書館活用法を早く見つけて、4年間の大学生活に活かしてください。



グループ学習室



第4閲覧室

~~~~~  
札幌学院大学図書館報「書林」第75号について

- \* 掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります。
  - \* 記事・写真の無断転載は禁止します。
  - \* 紹介図書の写真については、各出版社から掲載許諾を頂いております。  
許諾を下さいました各出版社の皆様には心からお礼申し上げます。
- ~~~~~